

保育計画(新規事業計画)成果報告書

法人名等	社会福祉法人 南山城学園
施設名	認定こども園ゆいの詩
一報告者（役職）	谷 翔子（副園長）
住所・連絡先	〒618-0013 大阪府三島郡島本町桜井2丁目7番1号
	☎075-962-1666
	E-mail general@minamiyamashiro.com

○タイトル（保育計画）

「子どもが、まんなか」の保育環境の実現に向けて

○主な助成備品

クリエイティブキューブⅡ、多目的棚、ついたて、パステルフレンズ 等

1. 保育計画策定の目的

認定こども園ゆいの詩では、子どもの「心が動いたことに対して、自ら考え挑戦していく」主体性を大切にしており、子どもたちの自己充実を保障できるよう、「子どもが、まんなか」をテーマに保育を行っています。

「子どもが、まんなか」の保育とは、子どもたちに一斉に同じ活動を求める、保育者の指示命令型の一斉保育ではなく、保育者が子どもたちの興味・関心の対象を汲み取り、子どもの興味・関心から始まるつながりのある遊び中心の保育や、環境を通じた保育といえます。

子どもたちにとって、身近な環境自体が子どもに意味を提供しており、子どもは環境との相互作用の中で自分の行動を調節したりして発達していくと考えています。

そのため、子どもたちが自発的に環境にかかわりが持てるように、子どもたちの発達や興味に合わせた保育環境を構成することを大切にし、いつでも好きな遊びを十分に深められる時間と場所を保障することで、豊かな学びを得ることができるよう配慮しています。

子どもたち一人ひとりが、自由に、自発的に遊ぶことができる保育環境のさらなる充実を図るため、こちらの保育計画を策定しました。

2. 具体的な実施内容

自由に自発的に遊ぶことができる保育環境の形成のため、まずは、2歳児保育室の環境を見直しました。2歳児クラスでは発達に即した手先を使う遊びが不足していたため、【クリエイティブキューブⅡ】【ひも通し 野菜&果物】を設置しました。

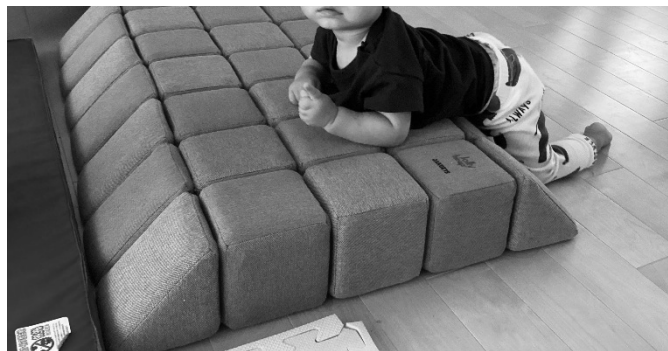
これらの遊びを通して、手先の巧緻性や集中力が養われ、また、想像力を広げてクリエイティブキューブを構成し、友だちと一緒にそれらを使用して、ごっこあそびに展開していく姿が見受けられました。(写真1)

<写真1>



1歳児クラスでも【クリエイティブキューブⅡ】を設置しました。キューブを積み上げることを楽しんだり、保育者と一緒に作ったものを乗り物に見立てて遊ぶ姿が見られました。また、キューブをベッドのように構成することで、ゆったりと気持ちと体を落ち着かせて過ごせるエリアとしても活用することができました。(写真2)

<写真2>



また、1歳児保育室は広く、エリアの仕切りがない保育環境ですので、子どもたちが走り回ったり、遊びに集中できない様子も見受けられたため、それぞれの遊びが保障できるように【ついたて<小>スタンセット】【ついたて布ピンク】をエリアの仕切りとして活用しました。

ままごとエリアに緩やかな仕切りを設置したことで、保育室を走る回る子がいなくなり、保育者や友だちと一緒に、長い時間落ち着いてままごと遊びを楽しむ様子が見られました。

次に、幼児クラスの取り組みを報告します。

【多目的棚ベーシック】は、子どもたちが考えた“夏祭り”をテーマにした遊びの屋台として活用したり（写真3）、ままごとエリアのお店屋さんのカウンターとして活用しました。屋台のイメージを持ちやすくなったことで、お店屋さん役、お客さん役になりきって言葉でのやりとりを深めたり、友だちと共通の目的を持って協力したり、イメージを合わせたり、気持ちを伝え合いながらごっこ遊びを楽しむことができました。

<写真3>



幼児保育室の積み木エリアには、既存の積み木に加えて、【パステル/レインボーツリー】【パステルフレンズ】【パステル/レインボーコイン】【チップ・パステル】を設置しました。既存の積み木の側に、新たにこれらの色彩豊かな玩具を構成したことで、子どもたちは、より一層創造力をのびのびと広げて、自由にパーツを組み合わせて、遊びに没頭する姿が見られました。（写真4）

<写真4>



【アベールブロック】は、既存の量では数が不足しており、遊びが制限されていたため、倍の量を用意し、複数の子どもたちと一緒にイメージを共有して遊んだり、個々にイメージしたものを存分にブロックで表現できる環境を設定しました。

5歳児保育室には、一人でじっくりと遊ぶエリアや玩具が不足していたため、【レシオのけん玉】【スティック四角】を用意しました。上達するまでに時間がかかる玩具であるため、何度も粘り強く取り組む力や、自己調整の機能を養うことができました。

3. その成果と評価

保育室を目的ごとのエリアに分け、発達に合った玩具の用意、それぞれの遊びが保障できる環境構成をおこなったことで、子どもたちが好きな遊びを集中してじっくりと取り組む姿が、以前よりも多く見受けられるようになりました。

そして、気持ちの切り替えに時間がかかる子どもも、自分の好きな遊びをじっくり取り組み満足できたことによって、遊びの区切りを自分で切り替えて、次の活動にスムーズに移行できるようになりました。また、時間に追われることなく一人ひとりの生活リズムを保障できるため、子どもたちも自分の生活に見通しをもって考えて行動する姿が見られました。

エリアごとの遊びのルールも保育者が一方的に教えるのではなく、子どもたちと共に考えることで、年下の子に教えてあげたり、子どもたち同士で伝え合う姿も見られました。

保育者も子どもの行動の選択や決断は本人に任せて見守ることで、子どもの思いに丁寧によりそい、自主性を尊重するようになりました。

その成果として、どの子どもにも安心して過ごせる居場所があり、信頼できる保育者のそばで、好奇心・探求心・憧れの気持ち・自らやってみようとする意欲が育ち、自立して生活していくための基礎が少しずつ身についています。

また、今回購入させていただいた玩具は、色・形は単純で、子どもの働きかけに応じて形が変わる応答性が高いものが多いため、子どもたちの想像力・思考力・コミュニケーション能力を伸ばす遊びの素材として非常に適していました。完成した玩具や遊び方が限定された玩具を与えるのではなく、応答性や汎用性が高い玩具や、素材を使った遊びを通して、相手の気持ちを想像する力、自分の思いを伝えられる力など、子どもの想像力・思考力・コミュニケーションが育まれていきました。

4. 今後の課題と展望

子どもたちの育ちには様々な人とのかかわりと、遊びによる学びが重要であり、その遊びによる学びを保障していくために、まずは環境を見直すことが欠かせません。

来年度の4月で開園して4年目となります。利用園児数も増えていくことから、しっかりと一人ひとりの子どもの興味・関心や発達、そして保育者の願いを重ねて、保育環境を整理し、充実することが今後もより一層求められます。

「子どもが、まんなか」の保育環境の実現のため、子どもが興味・関心を持ったことを、自らで考え挑戦していく経験を大切に、子どもたちの自己充実を保障できるような環境構成や声かけを常に問うていく必要があります。

そして、今の子どもたちが生きる未来には、与えられた課題の正解を求める力よりも、自分で問いを立て、解決策を仲間と協力しながら考え、生み出す力が必要です。

今後も、自立して生活していくための基礎を培うために、子どもの主体性を尊重しながらも、発達や興味に合った遊びを通して、年齢の異なるさまざまな他者と協同する力も育めるように尽力していきたいと思います。

以上